

# 第 155 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

## 議事概要

日 時：令和 4 年 3 月 24 日（木）13：15～14：15

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

### ・会議の概要

#### <報告事項>

- ◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。

#### <議題>

- ◇ 議題（1）について検討した結果、総括情報部提案のとおり沖縄県対処方針を変更することを決定した。
- ◇ なお、3 回目ワクチン接種歴による制限緩和については、国の見解を確認し、制限緩和が可能であれば、当該内容を沖縄県対処方針に追加することを確認した。
- ◇ 議題（2）について検討した結果、オミクロン株に対応した濃厚接触者の特定・行動制限については、総括情報部提案の考え方に基つき対応することを決定した。

## 1 参加者

玉城 知事、謝花 副知事、照屋 副知事、島袋 政策調整監、金城 知事公室長、池田 総務部長、儀間 企画調整統括監、普天間 環境企画統括監、小林 県警警備部長、大城 保健医療部長、名渡山 子ども生活福祉部長、下地 農政企画統括監、内間 建築都市統括監、友利 産業雇用統括監、真鳥 観光政策統括監、大城 会計管理者、佐次田 教育管理統括監、我那覇 病院事業局長、棚原 企業局長、諸見里 医療企画統括監、糸数 保健衛生統括監、インターネット活用によるリモート参加：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

## 2 報告事項

### （1）沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

#### ➤ 総括情報部から最新の新規陽性者及び療養者の状況について報告【資料 1】

- ✓ 3/23 の新規発生 913 名、合計 115,320 名、入院中 167 名、うち重症 2 名、うち中等症 88 名、入院・療養等調整中 645 名、宿泊施設療養中 508 名、自宅療養 3,826 名、入院勧告解除確認中 5 名で療養中患者計 5,151 名となっている。

### （2）米軍基地内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

#### ➤ 総括情報部から、米軍基地内における発生状況について報告。【資料 2】

- ✓ 3/23 時点、米軍基地内で 27 名。
- ✓ 12/15 以降、米軍基地において 8,454 名の陽性者が確認されている。

(3) 沖縄県内及び全国の感染状況について【資料 3、3-1~3-10】

- 総括情報部から、警戒レベル判断指標の状況や各種分析資料について報告。
  - ✓ 判断指標について、新規陽性者数（直近 1 週間合計）はレベル 4、病床使用率はレベル 2、重症者用病床使用率はレベル 1 となっている。
  - ✓ 直近 1 週間の新規陽性者数の前週比は 1.01 と徐々に増加している。
  - ✓ コロナ対応病床の一部を一般病床へ切り替えたため、一般病床の使用率は先週に比べて低下している。※一般病床使用率：93.5%
  - ✓ 直近 1 週間の人口 10 万人あたりの新規陽性者数は 293.18 で、全国 5 位。
  - ✓ 市町村別で見ると、浦添市、北谷町、西原町、南風原町、八重瀬町、久米島町、多良間村で感染者の増加が目立っている。
  - ✓ 新規感染者に占める 60 歳以上の割合は増えていないことから、病床使用率を低く抑えられている。
  - ✓ 医療従事者の就業制限数は横ばいの状況。
  - ✓ 3/14 の週の飲食店が推定感染源となっている感染者数は 133 人となっており、前週に比べて 11 人増加している。
  - ✓ 3/14 の週における県外からの移入例は 34 人となっており、前週から 7 名減少している。
  - ✓ 離島においても県外からの移入例が確認されている。
- 総括情報部から、沖縄県疫学統計・解析委員会の分析資料について報告。
  - ✓ 沖縄県疫学・統計解析委員会の分析によると、実効再生産数については、沖縄本島 1.02、宮古 1.10、八重山 0.93 となっており、全県的に流行は下げ止まりが続いている。

- ✓ 年齢階級別の増減率を見ると、活動的な 20 代で増加傾向となっており、新たな流行の前兆の可能性はある。
- ✓ 今週の新規陽性者数は 4,000～6,000 人、入院患者数は 180～200 人程度と見込まれる。
- ✓ オミクロン株 BA.2 の置き換わりが進んだ場合は、さらに感染者が増加するおそれがある。

#### (4) 宿泊施設の運用状況について【資料 4】

- 総括情報部から、宿泊療養施設の入居状況等について報告。
  - ✓ 那覇市内では 4 施設が稼働しており、381 名が療養している。
  - ✓ 中部地区では 1 施設が稼働しており 67 名が療養している。
  - ✓ その他に、北部で 31 名、宮古で 18 名、八重山で 16 名が宿泊施設療養中となっている。

#### (5) 沖縄県人口変動状況について【資料 5】

- 総括情報部から、KDDI Location Analyzer による分析結果を報告。
  - ✓ 人流については、繁華街、商業エリア、空港エリアの全てで増加している。
  - ✓ 商業エリアでは令和 2 年 3 月の頃よりも人流が増えている状況である。

#### (6) クラスターの発生状況について【資料 6】

- 時間の都合上、説明を割愛。

#### (7) 宮古・八重山地域の感染状況について【資料 7】

- 宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。
  - ✓ 宮古では 1 週間で 150 名程度の感染者が発生しており、その内 61 名が多良間

村で発生している。

- ✓ 年齢別で見ると、10代が半分程度を占めている。
  - ✓ 多良間村では、短期間のうちに学校のイベント、交流会があったため、それをきっかけに感染が拡大したおそれがある。
  - ✓ 多良間村では遅れてやってきた第6波、宮古島市では第7波の始まりの可能性があると考えている。
  - ✓ 多良間村において、219名について接触者検査を行ったところ、29名の陽性が確認されたが、高齢者の陽性は2名であった。
  - ✓ 多良間村では毎日対策本部会議を開催しており、宮古保健所も参加している。
  - ✓ 高齢者への感染が抑えられている理由として、3回目のワクチン接種が進んでいることが考えられる。
- 八重山地方本部から八重山地域の感染状況等について報告。
- ✓ 3/16の週の感染者は140名程度となっており、先週比0.87程度と下がってきている。
  - ✓ 年代別では、10歳未満、20代、40代で感染者が増えているが60歳以上については減ってきている。
  - ✓ 10歳未満では学校、保育園、習い事を通じての感染が増えている。
  - ✓ 20代は飲食店での感染が増えており、注意が必要と考えている。
  - ✓ 3/23に八重山でも東京からの来訪者からオミクロン株BA.2が2例確認されたが、経過観察等は問題なく終了している。

#### (8) PCR検査事業の状況について【資料8】

- 総括情報部から、検査事業実績について報告。
- ✓ エッセンシャルワーカー定期PCR検査の実績について、3/12~3/18は、介護

関係者 9,349 人が受検した結果、20 人が陽性であった（陽性率 0.21%）。また、障害者施設関係者 5,650 人が受検した結果、18 人が陽性であった（陽性率 0.32%）。保育施設関係者については、3,291 人が受検した結果、11 人が陽性であった（陽性率 0.33%）。

- ✓ 安価な PCR 検査補助の実績について、3/11～3/17 は 2,471 人が受検した結果、陽性者 114 人、陽性率 4.61%であった。
- ✓ ワクチン検査パッケージの実績について、3/12～3/18 は 5,283 人が受検した結果、陽性者 160 人、陽性率 3.03%であった。
- ✓ 一般無料検査の実績について、3/12～3/18 は 16,788 人が受検した結果、陽性者 900 人、陽性率 5.36%であった。
- ✓ 学校 PCR 検査の実績については 4,332 人（173 校）が受検した結果、陽性者 47 人、陽性率 1.08%であった。

#### （9）ワクチン対策チーム進捗状況報告について【資料 9】

- 総括情報部から、住民向けワクチン接種進捗状況等について報告。
  - ✓ 3/22 時点で 1 回目のワクチン接種が完了した人は 1,049,930 人となっており、接種率（県全体）は 70.7%となっている。
  - ✓ 3/22 時点で 2 回目のワクチン接種が完了した人は、1,038,660 人となっており、接種率（県全体）は、69.9%となっている。
  - ✓ 3/22 時点で 3 回目のワクチン接種が完了した人は、406,863 人となっており、接種率（県全体）は、27.4%となっている。  
※高齢者の接種数は 237,655 人（71.6%）となっている。
  - ✓ 5-11 歳の小児に対する接種について、6 市町村で 1,179 名に対し 1 回目の接種が実施されている。

(10) 空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA の運用状況等について【資料 10】

➤ 文化観光スポーツ部から、空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA の状況について報告。

- ✓ 空港 PCR 検査プロジェクトについて、3/14 の週の受検者は 3,513 名で、その内 33 名が陽性であった。
- ✓ 那覇空港抗原検査について、3/14 の週の受検者は 446 名で、その内 3 名が陽性であった。
- ✓ TACO について、3/14 の週のサーモグラフィー通過者は 219,835 人で、その内発熱者は 0 人であった。
- ✓ RICCA について、3/18 時点の登録者数は 146,058 人となっている。

(11) 感染症対策専門家会議の概要について【資料 11】

➤ 総括情報部から、3/20 に開催された感染症対策専門家会議の概要について報告。

- ✓ 事務局から、オミクロン株の特徴を踏まえた新たな濃厚接触者の特定・行動制限の考え方の概要を説明。

○オミクロン株の特徴を踏まえた濃厚接触者の特定・行動制限の新たな考え方

- ・ハイリスク施設以外については、保健所による濃厚接触者の特定は行わない。又、無症状者については 7 日間待機等の行動制限は行わない。
- ・ただし、幼稚園、保育園、学童クラブ等については、陰性判明まで待機を推奨する。
- ・また、一般事業所においては接触者 PCR 検査センターでの受検を促すほか、小中高などにおいては学校・保育 PCR 検査を引き続き実施していく。
- ・同居家族、医療機関や高齢者施設等のハイリスク施設については、引き続き県コロナ本部施設支援班及び保健所による積極的疫学調査による濃厚接触者の特定 7 日間待機の行動制限を行う。

・離島地域においては、感染状況により、保健所判断で調査に入ることを可能とする。

- ✓ 事務局からの説明に対し、委員から「離島における対応とわけて考えるべき」、「学校・保育 PCR は継続して欲しい」等の意見が出された。
- ✓ オミクロン株の特徴を踏まえた濃厚接触者の特定・行動制限の新たな考え方については、概ね感染症対策専門家会議の了解を得られた。
- ✓ 現行の県の対処方針は3月31日までとなっているが、引き続き4月1日以降も国の基本的対処方針に沿う形で、現行と同様の内容で県対処方針を決定する方針について説明し、専門家会議の了解を得た。

#### (12) 経済対策関係団体会議の概要について【資料12】

- 商工労働部から、3/23に開催された経済対策関係団体会議の概要について報告。
  - ✓ 県から現在の感染状況、ワクチン接種の状況、オミクロン株に対応した濃厚接触者の特定・調査の考え方等について説明を行ったところ、「ワクチン接種率を高め、経済回復に繋がる取組をお願いしたい」等の意見があった。
  - ✓ 事業所におけるオミクロン株に対応した濃厚接触者の特定・調査の考え方等の見直しについて、特に反対の意見はなかった。

#### (13) その他報告事項について

- 病院事業局から、県立病院の状況等について報告。
  - ✓ 中部病院からは一般病床が逼迫しており、中部医療圏の救急体制に支障が生じるおそれがあるとの報告があった。
  - ✓ 中部地域の病床確保に向けて、中部病院、中頭病院、中部徳州会病院、県保健医療部において調整を行っているところである。
  - ✓ 宮古病院からは、多良間村でコロナが流行しており、宮古病院から医師を派遣

したとの報告があった、

(報告(1)～(13)に関する発言について)

- ✓ 3回目の予防接種率について、2月末頃まで全国で上位の接種率であったが急に順位が落ちているが理由は何か。  
→総括情報部から、1、2回目の接種率が他県よりも低いことが影響している可能性があることを説明。
- ✓ 沖縄は他県より予防接種率が低いものの、1、2回目の接種をした人は危機意識が高いことから、集中的に働きかけてはどうかとの意見があった。
- ✓ 20代や働き盛り世代の3回目接種率が伸び悩んでいるが、対策はどうなっているか。  
→総括情報部から、ワクチン接種率の目標を定め、市町村にも働きかけながら接種率の向上を目指すことを説明。
- ✓ 市町村におけるワクチンの供給量は十分か質問があった。  
→総括情報部から、ワクチンの供給量に問題はないことを説明。

### 3 議題

(1) 沖縄県対処方針(案)について

- 総括情報部から、沖縄県対処方針(案)について説明。【議題資料1】

【議題資料1】のとおり4月1日以降を「感染再拡大防止と社会経済活動を継続するための対策機関」と位置づける沖縄県対処方針変更案を作成した。

◆ 現況について次のとおり評価した。

- ✓ まん延防止等重点措置終了後の対策を実施しているが、特に子ども達を中心とした全年代で持続的に流行が続いている。
- ✓ しかしながら、重症化リスクの高い高齢者の入院患者数の減少により、病床



使用率は安定的に50%を下回っている。

- ✓ 感染の急拡大を防ぎ、安定的な社会経済活動の継続を可能とするために、引き続き「ワクチン接種の推進」に加え、混雑した場所や不特定多数の人との会食等の感染リスクの高い活動を控える必要がある。

◆ 県の方針について以下のとおり整理した。

- ✓ 県は感染の再拡大を防止し社会経済活動を継続するためオミクロン株の特徴を踏まえた以下の事を要請する。
  - ① 重症化リスクの高い高齢者へ感染を拡げない
  - ② 子どもを感染から守る
  - ③ 移動・会食に関するリスクを回避する
  - ④ ワクチン接種の加速を図る
- ✓ なお、病床のひっ迫が想定される地域がある場合は、「コロナ感染拡大警報」を発出する。

◆ 県民・事業者等に対する要請内容について次の項目で整理した。

- ◇ 県民に対する要請内容について
- ◇ 来訪者に対する要請内容について
- ◇ 飲食店等に対する要請内容について
- ◇ イベント開催に対する要請内容について
- ◇ 商業施設・集客施設に対する要請内容について
- ◇ 事業者に対する要請内容について
- ◇ 交通事業者に対する要請内容について
- ◇ 福祉施設に対する要請内容について
- ◇ 各市町村における県と連携した取組の実施について
- ◇ 公共施設等での取組について
- ◇ 学校等に対する要請内容について

- ◆ 季節の行事に対する注意喚起について記載した。

(議題(1)に関する発言等について)

- ✓ 会食における人数制限緩和の要件として、3回目ワクチン接種を追加することも検討してはどうか、との意見があった。

→総括情報部から、国や専門家等の意見を踏まえて検討する必要がある、と回答。

- 議題(1)について検討した結果、総括情報部提案のとおり沖縄県対処方針を変更することを決定した。

(2) オミクロン株に対応した濃厚接触者の特定・行動制限についての沖縄県の考え方について

- 総括情報部からオミクロン株に対応した濃厚接触者の特定・行動制限にかかる沖縄県の考え方についてについて説明。

- ✓ 令和4年3月16日付け事務連絡「B.1.1.529系統(オミクロン株)が主流である間の当該株の特徴を踏まえた感染者の発生場所毎の濃厚接触者の特定及び行動制限並びに積極的疫学調査の実施について」において、濃厚接触者の特定、積極的疫学調査の見直しが示されたことから、県として考え方を次のとおり整理した。

① 同居家族について

○これまでの対応

- ・保健所が濃厚接触者の調査・特定を実施。
- ・濃厚接触者は7日間の待機。

○今後の対応

- ・これまでと同様、保健所が濃厚接触者の調査・特定を実施。

- ・濃厚接触者は7日間の待機、または4日目及び5日目の抗原定性検査キットを用いた検査で陰性を確認した場合は5日目から待機解除を可能とする。

② 一般事業所（専門学校、大学を含む）について

○これまでの対応

- ・濃厚接触者については感染者を通じて連絡し、接触者PCR検査センターを受検
- ・濃厚接触者は7日間の待機。
- ・ただし、社会機能維持者の場合は4日目及び5日目の抗原定性検査キットを用いた検査で陰性を確認した場合は5日目から待機解除を可能とする。

○今後の対応

- ・濃厚接触者の特定は行わない。
- ・濃厚接触者であっても無症状の場合は制限を行わない。ただし、接触者PCR検査センター等の受検、ハイリスク行動の自粛、一定期間の外出自粛を要請する。
- ・有症状の場合は、出勤自粛・医療機関受診を要請。

③ 医療機関、高齢者施設、障害者入所施設（ハイリスク施設）について

○これまでの対応

- ・濃厚接触者については、県の施設支援班と保健所が連携し特定・調査を実施。
- ・入所者については、7日間の待機を要請。
- ・職員については、4日目及び5日目の抗原定性検査キットを用いた検査で陰性を確認した場合は5日目から待機解除、または、毎日の検査で出勤可能とする。

○今後の対応

- ・これまでと同様に、県の施設支援班と保健所が連携し特定・調査を実

施。

- ・入所者については、7日間の待機、または、4日目及び5日目の抗原定性検査キットを用いた検査で陰性を確認した場合は5日目から待機解除を可能とする。
- ・職員の場合は、毎日の検査で陰性が確認されている場合は出勤可とする。

④ 幼稚園、保育園、特別支援学級、学童、児童向け学習塾、スポーツクラブ等について

○これまでの対応

- ・濃厚接触者については学校がリストアップし、保健所が確認。
- ・児童生徒については「学校・保育 PCR 検査」を実施し、7日間の待機。
- ・職員については、7日間の待機、または、4日目及び5日目の抗原定性検査キットを用いた検査で陰性を確認した場合は5日目から待機解除を可能とする。
- ・なお、通常の接触者については陰性判明まで待機を推奨

○今後の対応

- ・濃厚接触者の特定は行わないが、「学校・保育 PCR 検査」を実施する。
- ・無症状者については制限を設けないが、陰性判明までの待機、ハイリスク行動の自粛を要請する。
- ・有症状者については、登園・登校・出勤の自粛、医療機関の受診を要請する。

⑤ 小中学校、高校について

○これまでの対応

- ・濃厚接触者については学校がリストアップし、保健所が確認。
- ・児童生徒については「学校・保育 PCR 検査」を実施し、7日間の待機。
- ・職員については、7日間の待機、または、4日目及び5日目の抗原定性

検査キットを用いた検査で陰性を確認した場合は5日目から待機解除を可能とする。

- ・なお、通常の接触者については陰性判明まで待機を推奨

#### ○今後の対応

- ・濃厚接触者の特定は行わないが、「学校・保育 PCR 検査」を実施する。
- ・無症状者については制限を設けないがハイリスク行動の自粛を要請する。
- ・ただし、無症状であっても部活動等において対策なしの活動があった場合は出席停止とする。
- ・有症状者については、登校・出勤の自粛、医療機関の受診を要請する。

#### (議題(2)に関する発言等について)

- ✓ オミクロン株 BA.2 についても、今回の方針案での対応となるのか質問があった。  
→総括情報部から、オミクロン株 BA.2 においても今回の方針案で対応することを説明。
- ✓ 事業所については、接触者 PCR 検査センターの受検を要請するとあるが、接触者 PCR 検査センターが無い離島はどうするのか質問があった。  
→総括情報部から、小規模離島については、郵送での対応、出張検査、保健所での検査等の活用を検討していることを説明。
- ✓ 離島における保健所検査については、保健所の対応能力にも限界があることから、一般の検査センターの活用を検討して欲しいとの意見があった、
- 議題(2)について検討した結果、オミクロン株に対応した濃厚接触者の特定・行動制限については、総括情報部提案の考え方に基づき対応することを決定した。

#### 4 その他

特になし。

#### 5 閉 会